

早期実現へ機運醸成

県同盟が決議「米沢—福島」にトンネル



フル規格の奥羽、羽越両新幹線の実現を目指し、氣勢を上げる関係者＝山形市・パレスグランデール

山形フル規格 に新幹線を

フル規格の奥羽、羽越両新幹線実現を掲げるオール山形の組織「県奥羽・羽越新幹線整備実現同盟」（会長・吉村美栄子知事）の促進大会が20日、山形市のパレスグランデールで開かれた。奥羽新幹線を実現するためには福島—米沢間のトンネル整備が重要とし、その早期事業化などを掲げた大会決議を採択し、氣勢を上げて実現への機運を盛り上げた。

大会には約120人が参加した。日本青年会議所東北地区山形ブロック協議会の恩田健次会長の意見発表に続き、栗野宏山形大助教が「山形新幹線の短絡トンネル整備の意義」と題して

両新幹線の必要性を強調する一方、自然災害などの輸送障害が最も多い福島—米沢間の新トンネル整備が喫緊の課題だと指摘。トンネル整備の早期事業化やその財政支援をはじめ、両新幹線を整備計画路線に格上げするため、法定調査開始を政府などに強く要望するとした。

大会決議は県経営者協会長の寒河江浩一山形新聞社長（山形新聞グループ経営会議議長）が提案した。交流人口拡大や企業活動の活性化などを推進する上で、

講演。板谷峠の鉄道史を振り返りながら「輸送障害に対する抜本的な対策は短絡トンネルの整備しかない」と強調した。

大会に先立ち総会が開かれ、吉村知事はあいさつでJR東日本の福島—米沢間の防災対策に関する調査報告を踏まえ、「取り組みのステージを一段高めたい。まずトンネルの早期事業化

成や連携強化を目的としたシンポジウムや地域セミナーの開催、要望活動の展開などを盛り込んだ2018年度事業計画を決めた。

事業計画決める

県鉄道利用同盟会

県鉄道利用・整備強化促進期成同盟会（会長・吉村美栄子知事）の理事会が20日、山形市のパレスグラン

確保④羽越本線の速達性向上と安定輸送の確保。このうち③では、東北新幹線区間の停車駅の見直しによる所要時間の短縮や福島以北の携帯電話の早期の不感解消などを求めている。重点項目は、8月5日からの大雨で陸羽西線の一部区間で運転見合わせが続いていることを踏まえ、安全対策の推進などを盛り込んだ。

に取り組み、奥羽新幹線の実現に結び付ける」と意欲を語った。議事では会員や役員規約改正を承認。県、市町村、経済界、各地域組織が一丸となって運動を進めるため、副会長に県経営者協会長と山形経済同友会代表幹事、会員に県内4地域の整備実現同盟会が加わった。

18年度事業計画によると、最重点項目は①フル規格の奥羽、羽越両新幹線の建設促進②フル規格新幹線を見据えた福島—米沢間のトンネル整備③山形新幹線の速達性向上と安定輸送の